

目 次

はじめに	I
第 1 章 方法論としてのオートポイエーシス理論	10
第 1 節 オートポイエーシス理論 10	
1 機能 - 構造システムへの転換 10	
2 オートポイエーシス理論の特徴 12	
3 システムとしての社会とコミュニケーション 18	
4 社会システムの分化 20	
第 2 節 分析のための理論枠組み 22	
1 政治思想に関わる機能分化システム 22	
2 政治理論、政治思想、政治イデオロギーの関係性 28	
3 グローバル政治システムの 3 つのサブ・システム 31	
4 オートポイエーシス理論に対する国際関係学からの批判 35	
第 2 章 共和主義の歴史的変遷と システムとしての共和主義	45
第 1 節 共和主義の歴史的変遷 45	
1 都市国家アテナイとアリストテレス 46	
2 共和政ローマとキケロー 50	
3 中世北イタリアのコムーネとマキアヴェッリ 58	
4 17世紀以降の共和主義 68	
第 2 節 共和主義の共通要素 80	
1 共和主義の古典性 80	

2	共和政体	81
3	市民概念	87
4	共和主義の思想的支柱	97
第3節	共和主義のオートポイエーシス理論分析	106
1	システムとしての共和主義	106
2	グローバル社会における共和主義の機能分析のための理論枠組み	108
第3章	グローバル政治における共和主義の機能	111
第1節	国家間政治システムとの共鳴	112
1	国家間政治システムにおける支配からの自由	112
2	共和主義システムによる国家間政治システムの外部観察	113
3	新たなサブ・システムの分化	121
第2節	制度化された国際社会システムとの共鳴	125
1	制度化された国際社会をめぐるコミュニケーションの出現	125
2	制度化された国際社会システムにおける新たな試み	131
3	世界市民概念	139
第3節	グローバル市民社会システムとの共鳴	145
1	市民社会とグローバル市民社会	145
2	グローバル市民社会における新たな試み	148
3	グローバル市民社会によるガバナンスの正統性	153
4	他の2つのシステムとのハイパー・サイクル・モデル	163
おわりに		171
あとがき		
参考文献		
索引		